文化財庭園保存技術者協議会　会報

2009.7　第14号

編集・発行：文化財庭園保存技術者協議会（代表：玉根徳四郎）

〒600-8361 京都市下京区大宮通花屋町上ル　NPOみどりのまちづくり研究所内
TEL：075-341-2600　FAX：075-361-0961
評議会連絡所：〒606-8371 京都市左京区北白川瓜生山2-116　京都造形芸術大学　日本庭園・歴史遺産研究センター
TEL：075-791-9018　FAX：075-791-9342
東京連絡所：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-3福田ビル3F　文化財庭園保存技術研究センター
TEL：03-3202-5233　FAX：03-3202-5394

平成21年度総会・第１回研修会のご案内

平成21年度総会・第１回研修会を下記の通り開催いたします。今回の講演会は１名の講師をお招きし具体的な事例を交えご講演頂いた後、智積院境内にて、国指定名勝の智積院庭園などの見学を行います。

実技技能研修では、国立文化財機構の奈良国立博物館にて、庭園についてのご解説を頂き、空間構成、管理方針について会員諸氏と討議しつつ、実際の庭園において技術研修会を行います。

庭園の様々な事柄について、率直な意見交換が期待できます。ふるってご参加ください。

●平成21年７月17日(金)　会場：智積院（京都市東山区東山七条下る東瓦町）

13：00　受付開始（智積院宗務庁舎）
13：30　総会開会
14：00　教養研修（講演会）
　　講演：本中 眞 氏（文化庁記念物課主任調査官）
　　「文化財庭園とその保存技術」
15：45　実地技能研修　智積院見学（国指定名勝庭園ほか）
　　現地指導：尼﨑博正氏（京都造形芸術大学教授、評議会員）
17：00　閉会
18：00　情報交換会（「きくおか」京都市下京区塩小路通烏丸東入ル北側 菊岡家ビル２階 参加費5,000円）

●平成21年７月18日(土)　会場：奈良国立博物館庭園（奈良県奈良市登大路町）

9：30 ～ 17：00　実技技能研修

●平成21年７月19日(日)　会場：奈良国立博物館庭園（奈良県奈良市登大路町）

9：30 ～ 15：45　実技技能研修
15：45 ～ 16：00　講評
16：00　閉会

☆総会会場☆

場　所　智積院宗務庁舎（右図参照）
　　（京都市東山区東山七条下る東瓦町）
交通機関　京都市バス「東山七条」、徒歩５分
　　京阪電鉄「七条」下車、徒歩15分
　　（公共交通機関を御利用ください。）

総　会　会　場

☆研修会会場☆

７月17日　　教養・実地技能研修：智積院境内
７月18・19日　実技技能研修：奈良博物館庭園

平成20年度第2回研修会開催される

平成21年１月24日(土)・25(日)、千葉県野田市において参加者35名で、実地技能研修・実技技能研修を開催しました。その概要をご報告致します。

24日(土)、上花輪歴史館（名勝髙梨氏庭園）にて実地技能研修が行われました。はじめに本協議会玉根徳四郎代表、続いて上花輪歴史館の髙梨兵左衛門館長にご挨拶いただき、引き続いて研修を行いました。

最初に、上花輪歴史館内にて、髙梨兵左衛門館長より野田の醸造業の歴史とともに、髙梨氏庭園の庭園や建築の歴史、近年の修理などの経緯・状況についてご説明いただきました。

実地技能研修の様子(髙梨氏庭園)

続いて、実際に髙梨氏庭園を見ながら、髙梨兵左衛門館長や髙梨氏庭園の管理をしておられる(有)石正園の平井孝幸氏より、近年の庭園管理の経緯などについてご説明をいただきながら、実地を視察しました。

この後、会場を国登録記念物（名勝）の野田市市民会館（旧茂木佐兵衛邸）庭園に移し、野田市教育委員会の星野保則氏より、庭園や建築の成り立ち、野田市の所有になって以後の市民会館設立の敬意や庭園の様子などについてご説明をいただきながら、実地を視察しました。

翌25日(日)は、前日に実地技能研修会場でもあった、国登録記念物（名勝）の野田市市民会館（旧茂木佐兵衛邸）庭園にて実技技能研修が行われました。尼﨑博正・龍居竹之介・中村一・丸山宏・安原啓示評議会員の監修のもと、野田市教育委員会の星野保則氏より、近年の状況などについてご助言いただきながら植栽の管理を行いました。

実技技能研修の様子
（野田市市民会館（旧茂木佐兵衛邸）庭園）

本来、茂木佐兵衛邸は、敷地北側に現在残る主屋とともに、敷地中央にもう１棟の建物があり、主屋の南に流れの庭が、もう１棟の

建物の南に大きな景石の据えられた、広い泉水（池）の庭が展開するという、一つの敷地に二つの庭がある形態をとっていました。その後、敷地中央の建物が撤去され、跡地が芝生となっているため、現在は一つの庭のようになっている状態になっていますが、尼﨑・龍居・中村・丸山・安原各評議会員より、二つの庭のそれぞれの持ち味を生かすことを主眼として、剪定などを行うという方針が出されました。そこで、玉根徳四郎代表が全体の技術指導を行いつつ、流れの庭については、大きくなった低木類と、庭の見通しの支障になる中高木の切り下げを中心とし、泉水（池）の庭については、景石や護岸石組を覆っているツタなどの取り外しを中心として、樹木の剪定方法や、庭の景色のあり方などについて討議しつつ作業を行い、各自技術の研鑽に努められました。

１日だけの作業ではありましたが、流れの庭が明るい、瀟洒な感じの庭に仕上がるとともに、泉水（池）の庭は、本来の迫力ある石組がはっきり見えるようになり、二つの庭の持ち味が一層引き立つようになりました。

最後に、各評議会員より実技技能研修についての講評をいただき、また野田市教育委員会 星野保則氏からも、庭が本来の姿を取り戻してきたとのお礼の言葉をいただき、実技技能研修を終えました。

なお、25日（日）の実技技能研修では、以前から庭園の管理に入っておられる小山造園の方に、庭園の昔の様子をご教示いただくとともに、剪定枝の処分を引き受けていただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

平成20年度　特別技能研修鎌倉･京都で開催される

特別技能研修は、後継者育成事業として研修会員を対象に評議会員監修のもと正・準会員指導で技術の向上を図る研修として毎年関東と関西の２会場で開催しています。今年度も昨年度に引き続き鎌倉と彦根で開催しました。その概要をご報告致します。

鎌倉研修

関東での研修は、平成21年２月６日（金）から８（日）までの３日間、廣瀬慶寛副代表の指導のもと、神奈川県鎌倉市の瑞泉寺において、参加者12名（6日12名、7,8日8名）で開催しました。瑞泉寺では平成17年度から続けて４回目の実施となります。

６日午前は、鎌倉市役所世界遺産登録推進担当玉林美男氏より、瑞泉寺の庭園の概要、鎌倉市の世界遺産登録に向けての取り組みについて昨年度に引き続きご講演いただきました。その後、庭園に会場を移し、昨年度の研修の成果と今回の研修方針を協議しました。

６日午後から８日は、研修方針に基づき、一昨年から行なってきた偏界一覧亭に至る山道の岩肌に付着した苔や雑草、腐葉土を取り除き、空間を整備していく作業実習が進められました。岩の自然起伏からなる迫力と自然美が引き出され、空間が蘇生されていくことが実感として理解できる研修でした。

鎌倉特別技能研修の様子（上・下とも）

京都研修

関西での研修は、平成21年２月21日（土）～23日（月）に、京都東山 何有荘庭園にて加藤末男正会員の指導のもと参加者15名（21日15名、22,23日13名）で開催しました。

21日は、何有荘庭園にて実地研修が行なわれました。尼﨑博正評議会員より、庭園整備の方針や管理手法についてご解説頂きました。庭園整備の考え方については会員各々の忌憚ない意見を交換し合い研鑽を積みました。その後、園内を回りながら整備前後の様子や本庭園の特徴についてご解説頂きました。

京都特別技能研修の様子

22日は、庭園内のマツを中心とした剪定実習を行いました。樹形の変化と周辺景観への影響を踏まえて、今後どのような剪定管理が必要なのか討議し作業を進めました。

23日は、あいにくの雨天のため、京都南禅寺界隈の洛翠や無隣菴、平安神宮神苑などの庭園を実際にまわって研修を行いました。小川治兵衛による作庭の意図や管理方法などについて討議しました。

平成20年度第3回研修会開催される

平成21年３月27日（金）・28日（土）に、石川県金沢市において参加者27名で、研修会（実地技能研修会）を開催しました。その概要をご報告致します。

27日は、はじめに本協議会廣瀬慶寛副代表に開会のご挨拶をいただき、さらに会場をご提供いただいた石川県金沢城兼六公園管理事務所の山口勝昭所長のご挨拶をいただいて後、研修会を行いました。

まず、国の特別名勝兼六園内に隣接する石川県立美術館広坂別館にて、石川県金沢城兼六公園管理事務所の山口勝昭所長より「特別名勝兼六園の庭園管理について」と題して、長い年月の中で庭園の景観が変化してきたこと、景観を保全するために年間の管理計画を作成して管理していることなどをご説明いただきました。中でも、園内に560本ほどもあるマツについては、１本１本について樹勢などを記載した診断表を作り、それをもとに管理事務所の職員の方が管理しているということで、その努力と熱意には頭の下がる思いでお話をお聞きしました。

実地技能研修の様子（兼六園）

続いて、龍居竹之介評議会員より、「金沢の庭園について」の庭園と題して、金沢では江戸時代に多くの水路が作られ、その水を利用して兼六園を含む多くの庭園が造られたこと、水路の使用者なども細かく分けられ、きめ細かい水の管理が行われるとともに、その豊富な水が庭園に用いられてきたことなどをご説明いただきました。

最後に、栗山造園の栗山伴芳氏より、「兼六園の水系の音の分析結果について」と題して、様々な歴史資料から、翠滝（みどりたき）などの滝は水音も考慮して作られたと考えられること、時代が変わっても滝の水音が兼六園の主要な「景」をなし続けていることが資料の分析などによって明らかになったことなどをご説明いただきました。

お３方のご説明の後、石川県金沢城兼六公園管理事務所の山口勝昭所長にご案内いただき、折に触れて尼﨑博正・龍居竹之介両評議会員にご説明いただきながら、兼六園内を視察しました。また、名高い徽畛（ことじ）燈籠（※または琴似燈籠）の前では、今回の研修会にご参加いただいていた、西村石灯呂店の西村金造正会員に石質や構造などについてご説明いただきました。

引き続いて、兼六園に隣接する国指定名勝の成巽閣を視察しました。成巽閣の吉竹泰雄館長に重要文化財の茶室や建物・庭園の歴史や構成について解説いただきましたが、格別のご配慮により、茶室を含めた建物および庭園全体の見学をご許可いただき、非常に細やかな建物と庭の関係についてなど、貴重なお話もいただきました。

翌28日は、まず石川県指定名勝の西田家庭園（玉泉園）を視察しました。龍居竹之介評議会員と金沢市都市政策局歴史建造物整備課の中谷裕一郎氏、所有者である(財)西田家庭園保存会の西田氏のお３方より、庭園の成り立ちや、数多い石造品の由来、あるいは近年の変化などについてご説明いただきました。

続いて、金沢市指定名勝辻家（旧横山家）庭園を視察しました。金沢市都市政策局歴史建造物整備課の中谷裕一郎氏と所有者である辻氏より、庭園の成り立ちや、辻家による保存の経緯や現状についてご説明いただきました。中でも鉄筋コンクリートで基礎を作り、富士山近辺の溶岩を使って作った大滝石組の見事さには圧倒されました。

さらに、現在金沢市でその文化財的価値について調査している野村家庭園を視察しました。金沢市都市政策局歴史建造物整備課の中谷裕一郎氏より、歴史や変遷などをご説明いただきました。金沢市内の平坦な敷地にありながら、落差の大きい、山奥の渓谷のような雰囲気の滝石組が作られるなど、独特の意匠を有する庭園を鑑賞することができました。

最後に、各評議会員より講評をいただきましたが、龍居評議会員より、江戸時代の文化を継承しながら近代にも多くの庭園が作られてきた金沢のような城下町は非常に貴重なものであり、都市の成り立ちや歴史を踏まえて庭園を保存するということはどういうことかを考えてほしいと締めくくっていただいて後、廣瀬慶寛副代表より閉会のご挨拶をいただき、２日間の日程を終了しました。

庭園学講座１６の開催について

京都造形芸術大学主催の庭園学講座16が「世界遺産の普遍的価値」をテーマに8月28日(金)から30日(日)の３日間開催されます。先日ご案内させて頂きましたが、希望者多数のため当協議会としての申し込みは締め切らせていただきました。講座自体にはまだ空きがあるようですので、ご興味お持ちの方は同大学「瓜生山エクステンションセンター」(電話：０７５－ ７９１－ ９１２４)へ詳細をお尋ねください。

平成21年度実技技能研修(旧:技能技術練磨事業)及び第6回文化財庭園フォーラムならびに実地技能研修のご案内

岩手県を皮切りに、昨年度は大分県で順次開催してきました技能技術練磨事業と文化財庭園フォーラムですが、今年度は、９月25日(金)から28日(月)の４日間の日程で、和歌山県海南市及び高野町での開催を予定しています。

なお、会計区分の見直しのため、従前はフォーラムと同時開催していた技能技術練磨事業は実技技能研修に区分することとなりました。会員の皆様にはご面倒をおかけしますが、ご承知置きくださいますようお願いいたします。

25日は実技技能研修、26日は実技技能研修と技術見学会、27日はシンポジウム及び実地技能研修の予定で調整を行っています。28日実技技能研修は本協議会会員を対象とした研修事業ですが、技術見学会とシンポジウムは自由参加ですので、本協議会の会員各位とともに、お知り合いの方々もお誘い合せの上、ご参加くださいますようお願いいたします。

詳細については、確定次第、あらためてご案内させていただきます。

評議会員の変更について

本協議会設立以来、評議会員として種々ご指導・ご鞭撻をいただいていた安原啓示氏が、平成20年度末を以て評議会員を退任されました。安原啓示氏は、文化庁で文化財庭園保護の第一線でご活躍され、そのご経験を生かして、本協議会の運営にひとかたならぬご尽力を賜りました。この場をお借りいたしまして厚くお礼申上げます。今後は当協議会顧問として引き続きご指導を賜りますので、どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。

安原氏の後任につきましては、評議会員・事務局で協議を行った結果、田中哲雄氏にご就任いただくことになりました。田中哲雄氏は安原氏と同じく文化庁にて文化財庭園保護の第一線でご活躍なさいましたが、後に東北芸術工科大学の教授に就任され、後身の指導にあたられました。文化財庭園の保護だけでなく、史跡の整備、なかでも城郭の石垣の整備の第一人者でもあり、何かとご多忙にもかかわらず、評議会員へのご就任を快諾いただきました。厚くお礼申し上げます。

新規加入会員の紹介

平成21年6月末日で技能会員は119名、支援会員・賛助会員は16団体、3名となりました。ここに新規に入会された方をご紹介いたします。

会員種別	氏名	所属	所在
準会員補	藤野次男	ｸﾞﾘｰﾝｻｰﾋﾞｽ藤野造園	大分県
準会員補	平井孝幸	(有)石正園	神奈川県
準会員補	遠竹　守	(株)島津興業	鹿児島県
準会員補	山之内弘	(株)島津興業	鹿児島県

会員種別	氏名	所属	所在
研修会員	新藤志延	新藤造園総業	群馬県
研修会員	松永隆志	NIWA INTERNATIONAL	神奈川県
研修会員	栗山伴芳	(有)栗山造園	石川県
研修会員	寺嵜将士	(有)植泰	京都府